



「水資源機構」は60周年を迎えました!



2022年5月で水資源機構は設立から60周年を迎えました。水資源機構のこれまでを振り返ってみましょう。

1960年代、急増する都市人口で水の供給が追いつかず、東京オリンピックが開催された1964年当時の東京は記録的な渇水にみまわれました。ダムの水は枯渇し自衛隊による給水車が出動するなど「東京砂漠」と呼ばれる状況が長く続きました。



1962年に「水資源開発公団」が設立。産業と人口が集中する全国7水系を中心に水源となるダムや湖の開発、受益地まで水を送り届ける用水路の建設が進められ、水資源の開発と供給、洪水の防御等の社会的使命を果たしてきました。現在は「水資源機構」に名称を変え、全国7水系において53施設（31のダム等、水路総延長約3,000km）を管理しています。あわせて12の建設事業（ダム再生、水路耐震対策等）を実施しています。印旛沼も水資源機構によって開発された湖沼の一つです。



矢木沢ダム
(群馬県みなかみ町)



利根大堰
(埼玉県行田市・群馬県千代田町)



● 利根川・荒川水系における
水資源機構が管理する施設



全国の施設など詳しくは
水資源機構HPでご紹介しています。
<https://www.water.go.jp/>



水がささる豊かな社会



独立行政法人
水資源機構

Japan Water Agency みずしげんきこう
独立行政法人 水資源機構
千葉用水総合管理所

千葉県八千代市村上3139(大和田機場横)
☎(047)483-0722

🔍 千葉用水 🔍 検索



8/1は「水の日」、8/1~7は「水の週間」です。私たちが水を大切にしようとする気持ちが、生命と地球環境を守ります。